

事務事業評価シート

評価実施年度：平成29年度

上位の施策名称 施策Ⅲ-1-2
発達段階に応じた教育の振興

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

特別支援教育課長

佐藤真司

電話番号

052-22-5420

事務事業の名称	特別支援学校図書館教育推進事業	
目的	(1) 対象	特別支援学校の幼児、児童、生徒
	(2) 意図	特別支援学校の図書館機能を整備し、幼児、児童、生徒の学習活動や読書活動の充実を図ることで、豊かな感性や情操を育む。
事業概要	特別支援学校における障がいに応じた図書館機能(※)を果たすために、学校司書を配置した図書館利用の促進や教員と連携した授業での図書活用等の推進、蔵書の整備を行う。 (※) 図書館機能 ① 読書センター機能 児童生徒等が読書を楽しみ、読書指導の場としての機能 ② 学習・情報センター機能 児童生徒等の主体的な学習活動を支援し、必要な情報を収集・選択・活用できる場としての機能	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	図書貸出数		13,400.0	14,000.0	14,700.0	15,400.0	冊
		取組目標値			17,700.0	17,900.0	18,100.0	
	式・定義	特別支援学校における年間図書貸出数	実績値	12,768.0	17,565.0			
		達成率	-	131.1				%
2	指標名		目標値					
			取組目標値					
	式・定義		実績値					
			達成率	-	-	-	-	-

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	6,698	7,184
うち一般財源 (千円)	6,698	7,184

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

平成25年度に、特別支援学校全校に配置した学校司書による親しみやすい学校図書館の運営により、児童生徒の図書に関する興味が深まり、学校図書館を利用する児童生徒等が増加している。
 蔵書整備については、全ての特別支援学校で不足しているが、毎年少しずつ整備している。
 平成28年度に図書電算システムが未整備な学校に対して整備を実施した。

6. 成果があったこと(改善されたこと)

- ・学校図書館利用者の増加
- ・図書貸出数の増加
- ・授業において、学校図書館の利用や図書資料の活用が増加
- ・学校司書を対象とした研修等により、司書のスキルが向上
- ・蔵書数の増加
- ・電算システムの整備により、蔵書状況の把握等、学校司書の業務効率の向上
- ・県立図書館等との連携がすすんだ

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

①困っている「状況」

- ・児童生徒等が図書館で本を選び読む経験、読書に親しむ機会が十分でない。
- ・児童生徒等の主体的な学習活動、例えば情報の探し方・資料の使い方を学ぶ機会が十分でない。

②困っている状況が発生している「原因」

- ・蔵書が不十分であること。
- ・児童生徒数が多い学校では学校司書の活動が十分行き渡らない。

③原因を解消するための「課題」

- ・蔵書の整備
- ・学校司書の勤務条件(勤務時間)

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

- ・学習情報センター機能の向上を図るため、授業での図書館活用をテーマとした研修の実施等、学校図書館教育の充実を図る。
- ・蔵書数については、学校間・県立図書館・近隣図書館等と連携しながら蔵書を融通しあうとともに、整備は今後も継続する。
- ・児童生徒数が多い学校の学校司書の勤務条件について検討する。